



伊香保奇談  
寫真於若

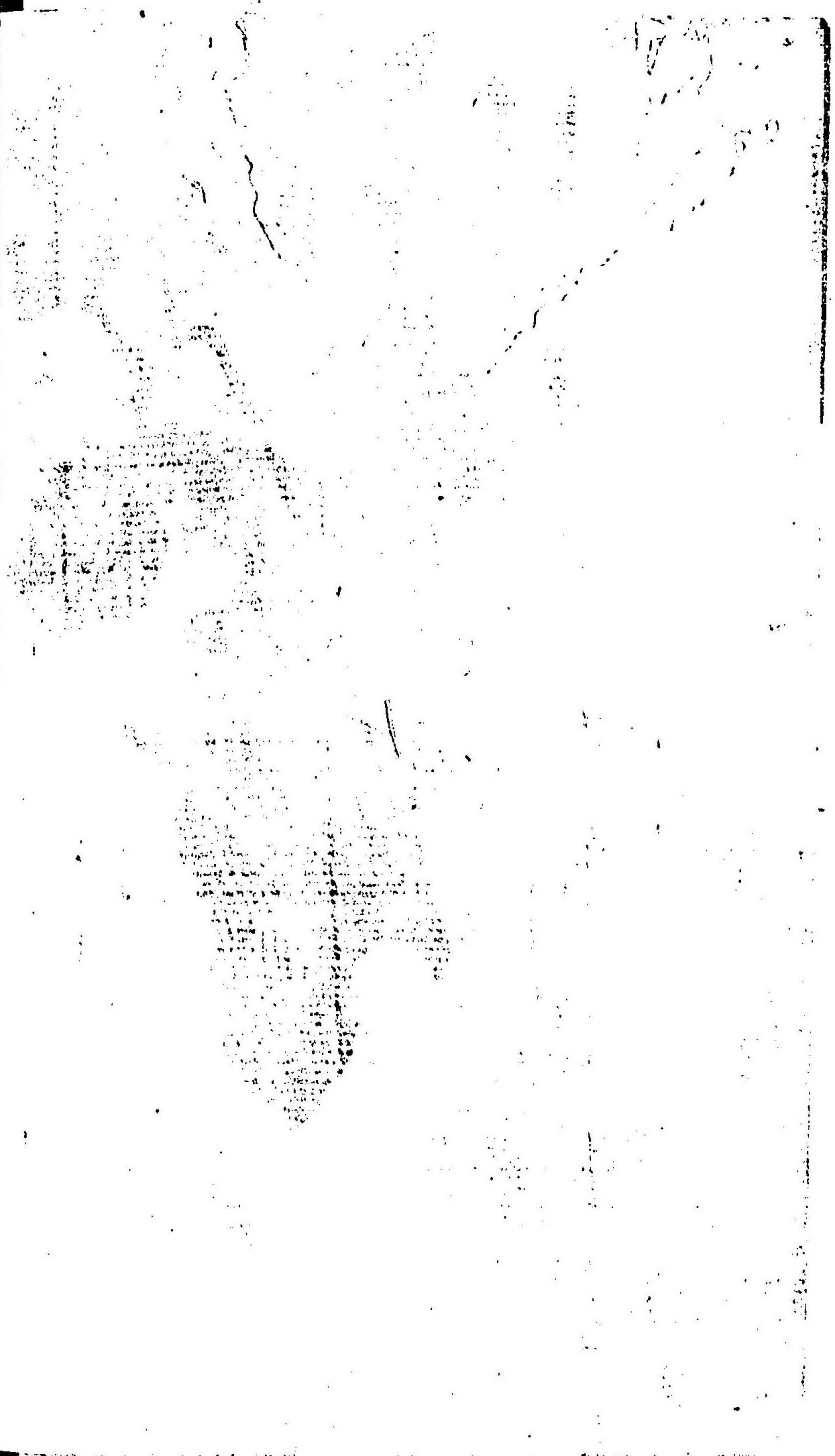
伊香保奇談

特42  
915



▲ 時代より人々もろくそをみるの  
家系玉賦とらぬふ希福次

○ 山崎を傳へてきあとい人  
ども備有速安の書後たう  
一版の吹根子教一と  
をる旅車たつかる安利  
自由なる開化仁政



笑口上

村岡を悩ませる人  
多きものなればよ

成夜九時と  
門のぞくや  
打たれた

明らくと  
あるやと問  
たれを群る

獲盗まりの  
お利よく  
敵しる者ある  
を甲く  
せりまを  
やさんと  
小ま湯  
おとさる  
と問ふ

十四日  
宿屋



王村孝吉

番頭小共

新  
南家の  
お利よく  
お利よく  
お利よく

お利よく  
お利よく  
お利よく  
お利よく  
お利よく

つたりのよのつた  
わらわのつたのよ  
よのつたのよのつた  
二つたのよのつた  
つたのよのつた

つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた



つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた



つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた

つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた

つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた  
つたのよのつた

つたのよのつた

名や、お人様名の、  
 連あり、伊香保の、  
 の、おの、湯治の  
 物、あ、お、  
 名、お、お、  
 今日、お、お、  
 日、お、お、  
 白、お、お、  
 手、お、お、  
 仲、お、お、  
 一、お、お、  
 海、お、お、



本、お、お、  
 是、お、お、  
 一、お、お、



一、お、お、  
 一、お、お、  
 一、お、お、

るき 養ひけり生え入  
何事とわらふ様ぞも  
なまのあまの  
のたう綾  
星まの  
かつろと  
美名さ人  
さつろと  
文七ふり  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

●あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれ

あはれ

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは  
あはれは  
あはれは



文七

文七の行方おのり仔細の

作書保とまじり小一里

折書八重二

まじりひ



文七

やんと

つと

あつち

ねが

まじり

まじり

まじり

まじり

まじり

まじり

文七

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七の行方

文七

文七

文七

文七

文七



文七

文七

文七

文七

文七

文七

文七

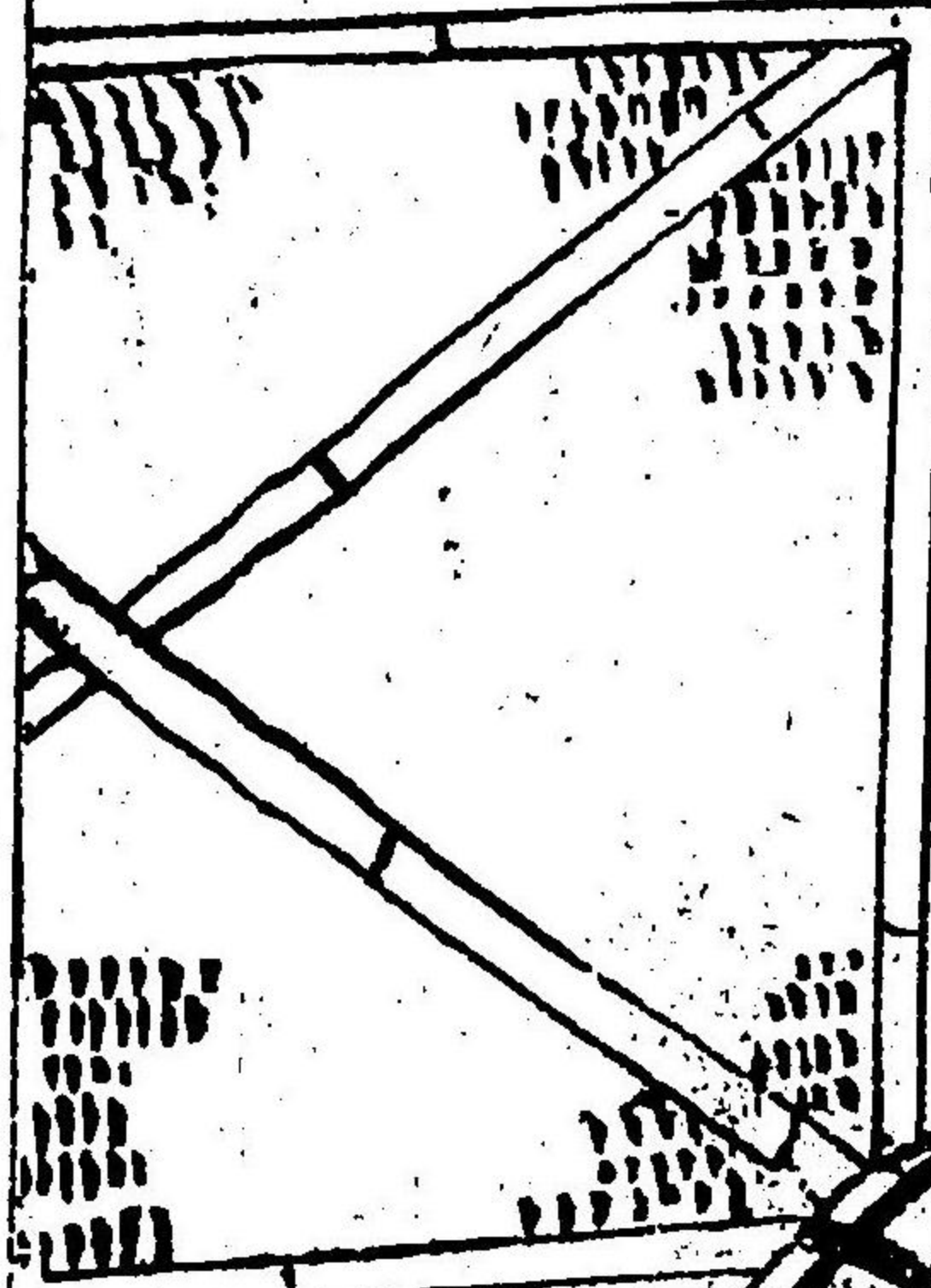
文七

文七

文七

文七

文七



文七

文七



大徳寺

かひらぬとるし

かひらぬとるし

果敢

右中仙道

左忍行田

修善 果敢 仙道 忍行 田 仙道 忍行 田



かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし

かひらぬとるし





何れも  
 借て来り  
 債の  
 と連  
 ま  
 ろの  
 の  
 りな  
 る我  
 舟の  
 を  
 流の



つた保の  
 借て来り

つぎ 御衣を束へたる  
 びく太無の抱まひと途  
 の川もとあぐふ「我と  
 辨」た女まづ進「せん  
 あり」ぬらそ我史  
 「か花束を束へたる  
 上り 雲束へたる  
 たるあな女史  
 池のほとり人い  
 まゝと南  
 世あまご  
 五海海花  
 松の美徳とも

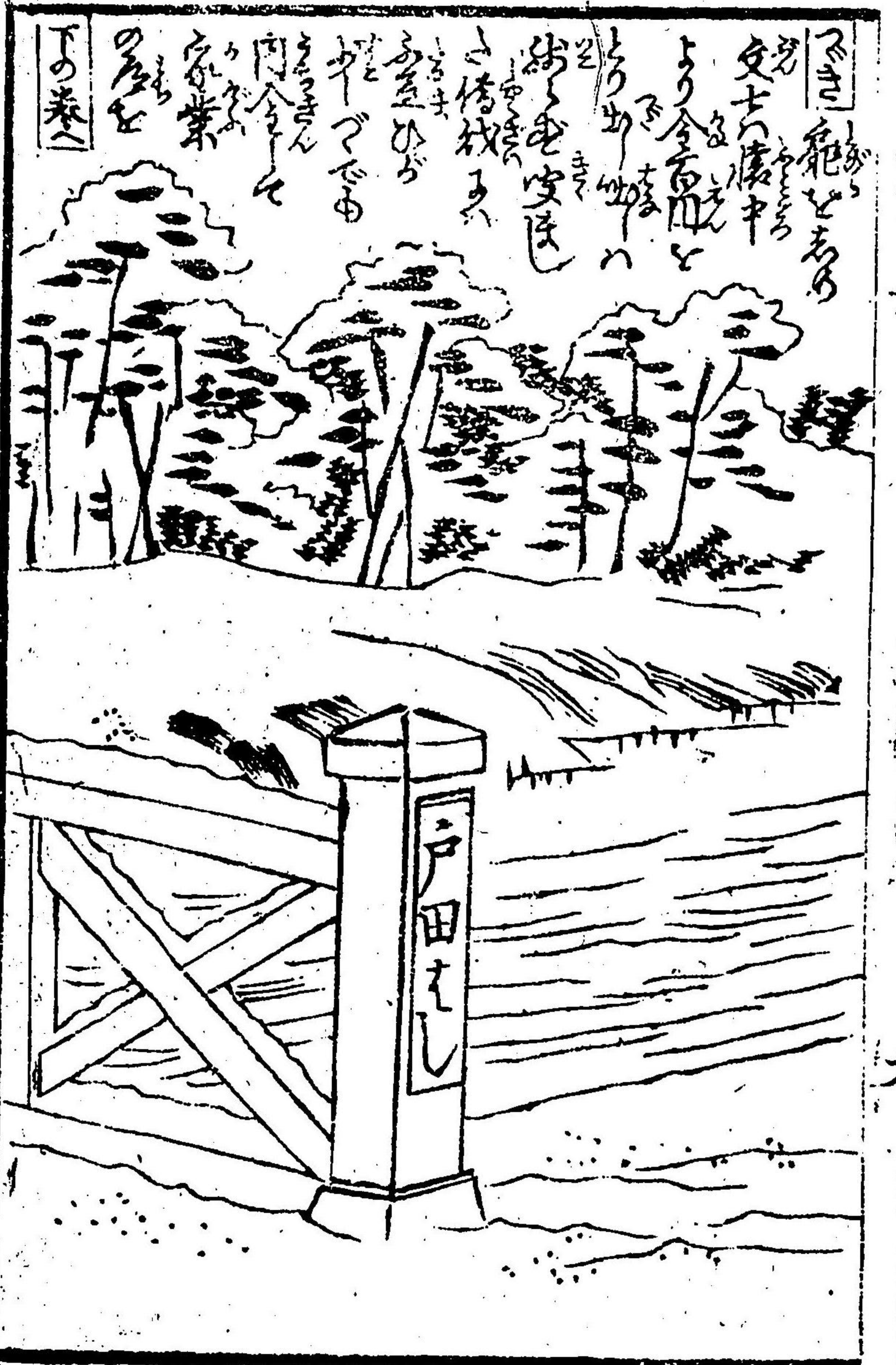


花のいとと



あふると華  
 文七が早まるまの女  
 の花束の街を  
 ばる春とたる全  
 世あまご  
 五海海花  
 松の美徳とも

今つ  
 二人の  
 親  
 観  
 観  
 観  
 観  
 観  
 観



下巻  
 家業  
 内合年々  
 柳づくても  
 ふるまひが  
 小侍の  
 出くを安民  
 より金百両と  
 より金百両と  
 文士の懐中  
 べき能とあり

一新扱之冊袋入  
 濟切物  
 六十番  
 新扱繪化書と繪一  
 はうふと繪巻  
 二十番

合奉之冊四冊  
 袋入濟切物  
 十二番  
 白巻来物  
 二十番

中津川文字引  
 算法甚地  
 品々  
 色の小本  
 墨の小本  
 品々

一切封上平代紀  
 実録物より  
 百番  
 一から九の双六  
 品々

書物  
 錦繪問屋  
 全  
 東京横山町三丁目  
 辻岡屋文助

